

対馬丸記念館ワークブック 活用法および解説

このワークブックは、対馬丸記念館の展示にそって作成しています。
見学の事前学習および当日の見学時にご活用ください。



1. 対馬丸記念館学習とは

記念館は「子どもと平和」をテーマとした記念館です。

2階をスタートとする展示室では、先ず「対馬丸が撃沈された事件とは」をテーマに、疎開決定から撃沈された後までの様子を学習できるように展示しています。つづく1階展示室は「生きていたきみたちを忘れない」をテーマに、犠牲者の刻銘板や遺影・遺品とともに、当時の子どもたちの過ごしていた学校の様子を再現した教室や、疎開先での生活の様子が展示されています。子どもたちにより身近に感じ学習してもらえるような展示にしています。そして、最後に「対馬丸を平和の道しるべに」では、いまぼくたち、私たちにできることを一人ひとりが考え平和の約束の場としてご活用できるように展示しています。

事前学習として、ワークブックを活用し基礎となる知識を身につけ、テーマをもって見学しましょう。

2. 構成

「Ⅰ対馬丸事件とは」「Ⅱ戦前の小学校」「Ⅲ沖縄での戦争」は、展示にそって子どもたちにより分かりやすくまとめたもので、事前学習時のご活用をお勧めします。

「Ⅳ調べてみよう・考えてみよう」は、学習で押さえておきたいところを発問にし、書き込みができるようにしました。特に、⑤⑥⑧⑨⑩は見学時に実際に感じ考えて、書いていただくことをお勧めします。一人ひとりの考えを大切に記入していただきたいです。

3. 見学にあたって

書くことに終始せず、じっくりと身を置き記念館全体の雰囲気を感じ取ってください。また、子どもたちの見学前に引率の先生方へは事前の下見を勧めております。展示内容をご覧いただき、平和学習へより効果的にご活用いただけるようお願いいたします。

IV 調べてみよう・考えてみよう



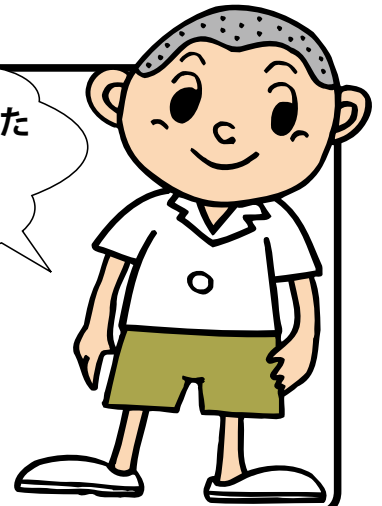
ここでは、子どもたちが疎開をしなければならなかった背景を押さえない。

- ・政府から疎開の命令があったから
- ・沖縄が戦場になる危険が大きくなってきたから
- ・安全な所に避難するため

などが、考えられる。学童集団疎開は、国策だったという事実を押さえる。また、疎開先で子どもたちの安全と教育の場を確保するとともに、沖縄では戦闘に備えて、軍隊への食糧供給を安定させ、防衛体制を強化するためであったことを押さえておきたい。学童疎開は、他府県の都市部でも行われた。

→関連ページ：I 対馬丸事件とは①疎開命令、II 戦前の小学校②学童疎開

①疎開することになったのはなぜでしょうか。



②親たちが、わが子を疎開させるか悩んだのはなぜでしょうか。

- ・子どもと離ればなれになることが心配だから
- ・海には潜水艦がいて、航海中に襲われる危険があると考えたから
- ・沖縄に残れば、敵の攻撃を受ける危険があると考えたから
- ・疎開するにも沖縄に残るにも、命の危険を伴うと考えたから

などが、考えられる。

学童集団疎開は、学校単位での疎開で訓導(先生)とともに親元を離れて生活をするということを押さえない。

沖縄にも軍隊がぞくぞくと上陸し、戦闘態勢を強化している中で、迫りくる戦争の足音を感じながら、7月の疎開命令から短時間で決断・準備をしなければならなかった親の苦しみ・葛藤に気づき、考えることができるとよい。

→関連ページ：I 対馬丸事件とは②疎開にむけて、II 戦前の小学校②学童疎開

③子どもたちのなかには、疎開することを楽しみにしている子もいました。なぜだと思えますか。

ここでは、前項の②をうけて、親と子どものそれぞれの立場を比べ考えさせたい。

- ・ヤマトへ行けば、雪も見られるし汽車にも乗れるから
- ・友だちと船に乗って行くから(修学旅行みたいだから)

などが考えられる。キヨシ君のフレーズ「ヤマトへ行けば、雪も見られるし汽車にもものれるんだよね」(P2)などこれは体験者の証言などによるもの。当時、疎開の指示を受けた各学校では保護者や地域の方を集めた疎開を推奨する説明会が行われていたり、先生方が各家庭を訪問し子どもを疎開させるよう求めるなどということがあったようである。子どもたちは、疎開先で待ち受ける「ヤーサン、ヒーサン、シカラーサン」と表現されるほどの苦しい生活を想像もできなかった。

この項目は「疎開のとき何を持って行ったの?」や「疎開先ではどんな生活をしていたの?」などに興味を持ち、主体的な調べ学習に発展しやすい項目である。

→関連ページ：I 対馬丸事件とは②疎開に向けて

④対馬丸はいつ・どこで沈められたでしょうか。

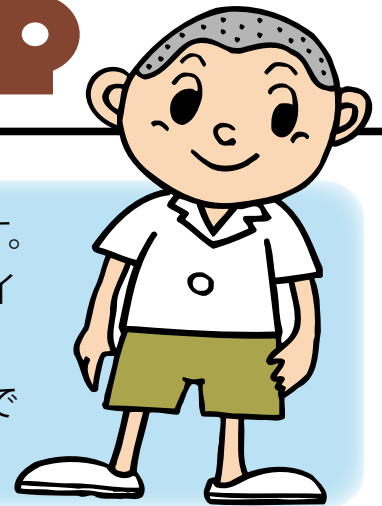
沈められた日：1944(昭和19)年 8月22日 夜10時12分ごろ

沈められた所：鹿児島県トカラ列島の悪石島沖

ここでは、基礎的事項を押さえる。また、那覇港を出港した翌日のみんなが寝静まった夜攻撃を受け、わずか10分たらずで沈んだため、ほとんどが船内に取り残されたままだったということや、攻撃したボーフィン号は速度の遅い対馬丸に狙いを定めていたことなどを押さえておきたい。

→関連ページ：I 対馬丸事件とは④撃沈される

見学のポイント



記念館の建物は、対馬丸船体をイメージしてつくられています。そのため、2階を入り口にしており、館内は柵や階段など船をイメージするつくりになっています。記念館への階段を上ってくる際は、対馬丸に乗船する気持ちで想像しながら入館してみてください。

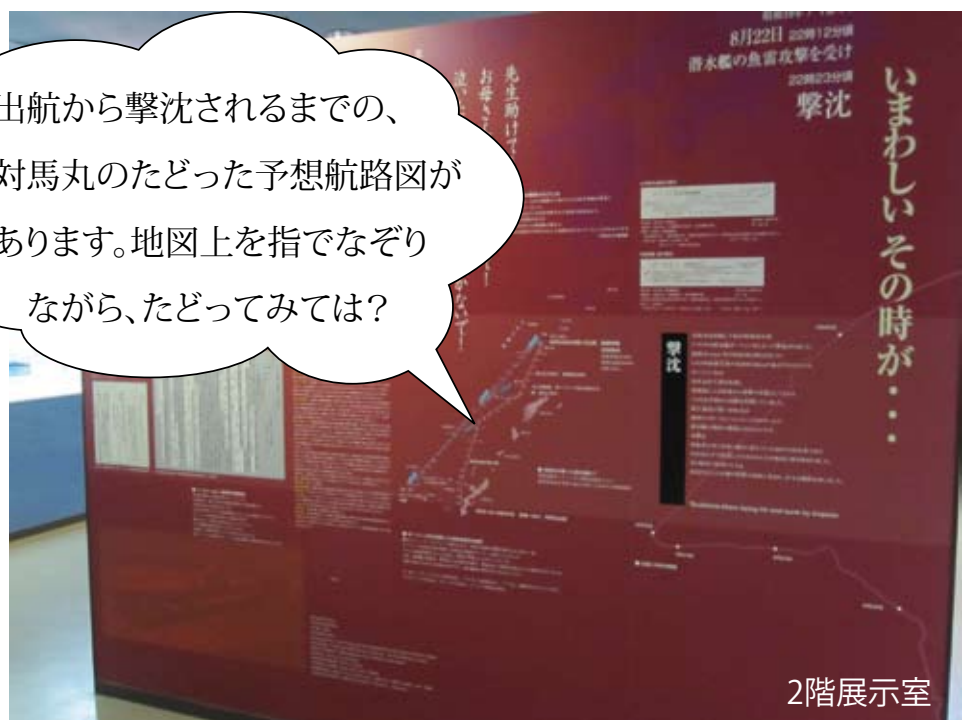


疎開命令から撃沈される前までの様子が、短い話し言葉でつづられています。会話調なので、理解しやすいです。

2階展示室



出航から撃沈されるまでの、対馬丸のたどった予想航路図があります。地図上を指でなぞりながら、たどってみては？



2階展示室

IV 調べてみよう・考えてみよう



⑤船の中からにげ出せず、海の中へ沈んでいった人々は、そのとき何を考え、どんな気持ちだったと思いますか。想像しながら書いてみましょう。

ここでは、乗船者のほとんどが10分たらずで船体とともに海底へ沈んで行く状況を自分に置き換えて想像させたい。

・怖い、苦しい、船の中から出たい

などが考えられる。夢をもって助かるべく疎開した人々の、生きてくても生きることのできなかった状況を押さえ、そのときの気持ちを想像することで、戦争の悲惨さ・残酷さなどを感じとって欲しい。想像する際に、対馬丸は現在のような客船ではなく老朽化した貨物船であったこと、船内は狭く2段の棚にぎっしりと詰め込まれていたこと、攻撃はみんなが寝静まった夜中の出来事でわずか10分たらずでほとんどの人が船内に閉じ込められたまま沈んでいったこと、などを押さえておきたい。見学時には、2階展示室にある漂流中の夜の海の様子を表現したコーナーや、1階展示室の蚕棚や体験者の絵などを見ながら、改めて状況を感じ取ってほしい。

→関連ページ：I 対馬丸事件とは④撃沈される

⑥沈んでいく船から真っ暗な海へ投げ出された人々は、漂流しているときどんな気持ちだったと思いますか。想像しながら書いてみましょう。

ここでは、撃沈から漂流中の状況について証言などをもとに読み取り、自分に置き換えて想像してほしい。

・怖い、誰か助けにきてほしい、おなかすいた、寒い

などが考えられる。

この項目は、壮絶な体験を経て生きてきた人々がいるということ、またその生存者の人生に目を向けることで、「生きる」という意味を考える発展的学習につなげることでできる項目である。

見学時には、2階展示室に漂流中の様子表現したコーナーに当時使用されていたという3種類のイカダの模型があるので、探して見てそのときの状況を想像してほしい。

→関連ページ：I 対馬丸事件について⑤漂流、救助

⑦対馬丸が沈没したことを「話してはいけない！」と言われたのは、なぜだと思いますか。

ここでは、箝口令が厳しくしかれていたことを押さえ、さらに秘密にしなければならなかった背景まで疑問を持ってほしい。

・箝口令という命令で、話すことを禁止されていたから

・対馬丸が沈められたことを話すとみんなが大騒ぎするから

などが考えられる。箝口令が厳しくしかれたことで、救助され生き残った人々やその出来事を知る人々は、話したくても話せない状況にあったことを押さえる。さらに対馬丸沈没の出来事を秘密にしなければならなかった背景にまで疑問をもって考えられるとよい。

撃沈から漂流を経て奇跡的に生き延びた生存者は、ともに乗船した兄弟・姉妹などの安否はもちろん、乗船者の安否を心配する家族などから問われても話すこともできずに、さらなる苦しみの中で疎開生活を続けなければならなかった。それは、疎開が国策であり、船が撃沈したことが軍事機密であったという事実を物語っている。そのため、後に続く疎開希望者の不安をあおり疎開推進強化の妨げにならないよう、また、国民の戦意喪失を招くことにならないよう、厳しく箝口令がしかれた。

→関連ページ：I 対馬丸事件とは⑥箝口令、生存者の苦しみ



見学のポイント



2階展示室

2階展示室奥の吹き抜け部分には、真っ暗な海に投げ出され漂流する様子を再現した展示があります。生存者の証言をもとに作成した3種類のイカダがあり、はり巡るロープは、波を表現しています。

イカダの模型サイズ / mm
(右: ド・ナツ型) 1600×1600
(左手前: 筏) 1800×1800
(左奥: 竹製) 2200×1500

1階へ階段を下ると、船内の様子を描いた生存者の証言スケッチがあります。また、階段の横には船倉ベットの模型が展示されています。子どもたちが過ごした2段の棚の様子を体感できます。



1階展示室
縄ばしご

IV 調べてみよう・考えてみよう

⑧ 対馬丸の沈没でどれくらいの人が犠牲になったでしょうか。

対馬丸に乗った人：1788人（船員・兵隊を含む全乗船者）

犠牲になった人：1482人（船員・兵隊を含む全犠牲者）*



ここでは、乗船者と犠牲者の数を比較することで、具体的に犠牲となった人の多さに気づかせたい。

調べる際に注意すべきことは、当時は細部にわたる被害実態調査は行われなかったため、対馬丸に関する確実なデータは1つもないということである。よって、これら数字データはおおよその目安としてとらえること。そして、このことも対馬丸事件の本質として押さえたい。

人数については、「疎開者のみ」と「疎開者、船員、船舶砲兵隊員」の捉え方があり、上記は後者である。ここでは、すべての人を含む数字で捉えてほしい。また、疎開者の内訳にある「学童」は国民学校の子もたちの数で、「一般」には、学齢期以下の幼い子どもたちの数も含まれていることも知っておいてほしい。1階刻銘板に記されている年齢を見ればこのことが分かる。

上記犠牲者数(*)については、遺族からの申告による氏名判別・調査によりその都度変わっていく数字であり、改訂した日付とともに提示している。

平和の礎の刻銘数が追加されていることを例にとっても、犠牲者数は不確定ということである。

見学時には、2階展示室入り口の掲示板や、1階刻銘板を見てほしい。

⑨ 展示室にある遺影（犠牲になった人の写真）には、いろんな人のいろんな写真があります。

それを見て気づいたことや感じたことを書いてみましょう。

ここでは、遺影を見てどんな人たちが対馬丸に乗り、犠牲になったのか、じっくり見て考えてほしい。

- ・子どもたちがたくさん乗っていた。赤ちゃんも乗っていた。かわいそう。
- ・記念写真や家族で写っている写真もある。
- ・笑顔で写っている写真がある。

などが考えられる。みんな家族がいたということを見つけてほしい。

見学の際には、遺影に「名前」「学校名」「年齢」が記されているのでそこにも注目させたい。また、犠牲者の数に比べ遺影の数が5分の1程と少ないことに気づき、実際に犠牲者全員の遺影を展示するとどれくらいになるのか想像してほしい。

犠牲者の遺影や遺品が少ないのは、船が海で撃沈されたこと、犠牲者の8割が那覇市であり十・十空襲やその後の地上戦で失われたこと、などが原因のひとつとなっており、これが記念館の特徴である。

⑩ 遺影（写真）の人たちは、私たちに何を語りかけていると思いますか。亡くなった人たちの気持ちになって書いてみましょう。

ここでは、犠牲者たちが今の私たちに何を伝えたいのかを考えるための発問。

「生きたくても生きられなかった」犠牲者の思いを考えたり、対馬丸事件から戦争の悲惨さ・残酷さを学習した上で、命の大切さや平和の尊さなどについて考えてほしい。

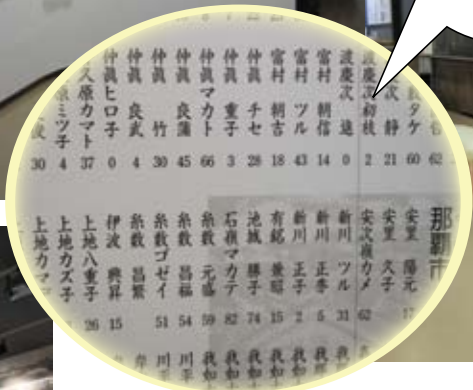
見学の際に、展示室1階の遺影と向き合って考えてみてほしい。

見学のポイント



刻銘板

刻銘板は、学童と一般に分かれています。対馬丸で犠牲となった学童の出身校や地域、年齢、また訓導や世話人、船員、兵隊などをキーワードに見ると、いろんな発見があります！



1階展示室には、戦前に子どもたちが使っていた教科書や成績表、玩具など、当時の子どもたちをとりまく時代背景の分かる資料が展示されています。今の自分たちと比べられる身近な資料がいっぱい！
また、残された数少ない遺品や遺影も展示されています。



昭和19年の教室



証言ブース

IV 調べてみよう・考えてみよう

①下の、旭ヶ丘公園地図の
a b c の慰霊碑について、
公園内を歩きながら名前を
調べてみよう。



対馬丸犠牲者の慰霊碑「小桜の塔」がある旭ヶ丘公園周辺には、いろいろな記念碑がある。a b c の慰霊碑は、沖縄戦に関わりのあるものとして選定した。その他にも、沖縄の歴史や文化・芸能に関わりのある記念碑があるので、広い公園内を探検しながら調べてみるのもよい。

- a 海鳴りの像：太平洋戦争中、沖縄県民が乗船して撃沈された対馬丸以外の戦時遭難船舶の犠牲者を祀る慰霊碑。この像は何を表しているのか考えてみよう。
- b 戦没新聞人の碑：1945年の米軍上陸後も、首里城地下に掘られた壕内で、約2ヶ月にわたり新聞発行を続けた「沖縄新報」の記者など14名の霊を祀っている。
- c 那覇市恒久平和モニュメント「なぐやけ」：
那覇市が壊滅的な被害を受けた十・十空襲を心にとめ沖縄戦における那覇市民の犠牲者の追悼と不戦を誓った恒久平和モニュメント。那覇市出身の戦没者約2万9千人の名簿が奉納されている。

NAHA PEACE MONUMENT PARK 旭ヶ丘公園 MAP





「心に残っていること」や「一番大切な人へ伝えたいメッセージ」を
書いてみましょう。

ここは、これまでの学習を振り返り、自分の気持ちや考えを発信する
ための発問。



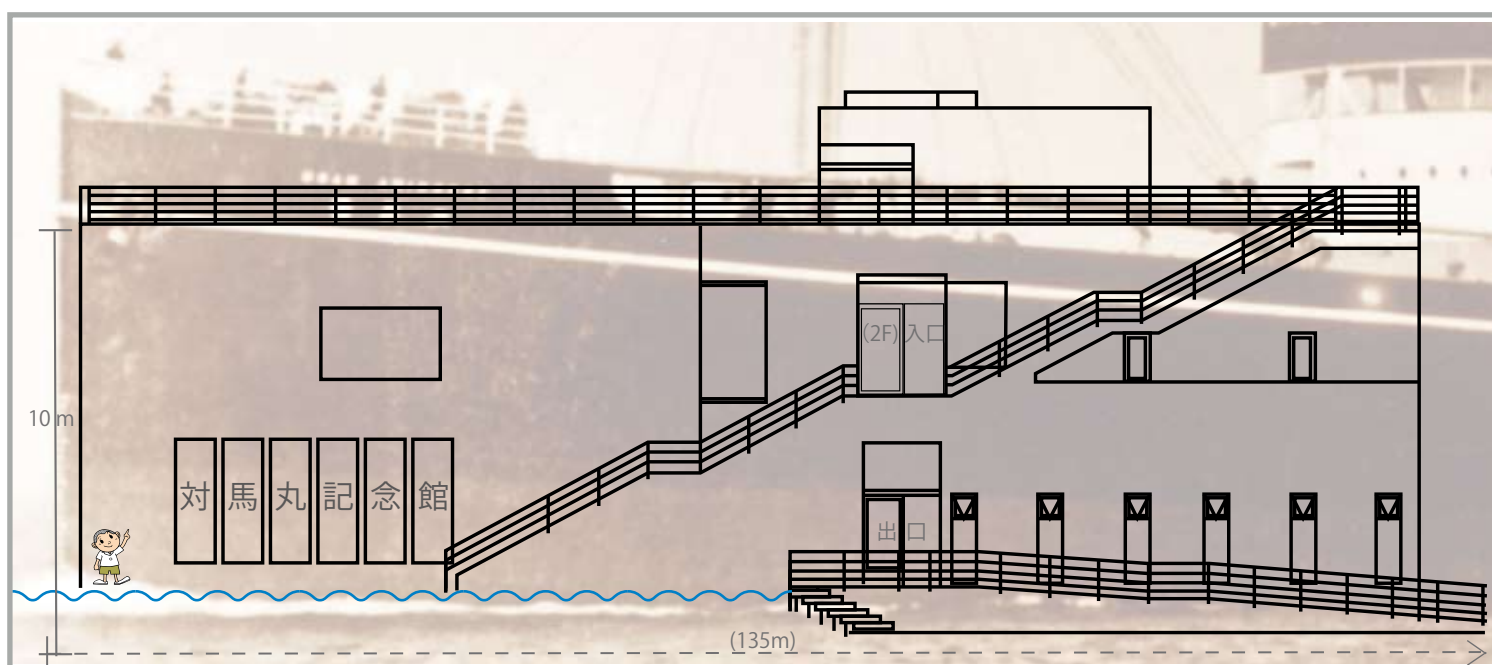
対馬丸記念館の建物について

対馬丸記念館は、対馬丸への乗船をイメージしてつくられた建物です。

建物の屋上までの高さは、約 10 メートル。

海面から甲板までと同じ高さです。

船の長さは、135 メートル。この建物左端から波の上ビーチ入り口までの距離とほぼ同じ長さです。



対馬丸記念館ワークブック 活用法および解説

発行：公益財団法人 対馬丸記念会

〒900-0031 沖縄県那覇市若狭1丁目25番37号

Tel.098-941-3515 Fax.098-863-3683

<http://tsushimamaru.or.jp>

監修：対馬丸記念会平和学習推進連携委員会

編集・制作：対馬丸記念館